



▲郷土の歴史や文化を学びながら真剣に勝負した「第15回彩の国21世紀郷土かるた所沢大会」。気合いが入った子どもたちの熱気が、冬の寒さを吹き飛ばしました。

1月22日(出)／市民武道館 (撮影：市民カメラマン・伊藤磨紀子)

みんなのひろば



▲さくら児童館で約100人の親子が、楽しくもちつきをしました。みんな、自分たちでついたおもちをおいしそうに食べていました。

1月27日(休)／さくら児童館 (写真・文：中央中学校1年・清水一希、八幡泰河)

◎この行事の取材は、所沢市役所広報課へ職場体験に来た中央中学校の生徒が行いました。



▲「第16回武道祭」では、張り詰めた緊張感の中、空手道をはじめ弓道、なぎなた、柔道、太極拳、合気道、剣道、杖道の団体が日ごろの鍛錬の成果を披露しました。

2月6日(日)／市民武道館 (撮影：市民カメラマン・木村清貴)



▲2月3日(休)の節分には市内の各寺院・神社で「節分祭」が行われました。「福はうち、鬼はそと」の掛け声の中、多くの参拝客がまかれる豆に手を伸ばします。

2月3日(休)／北野天神社 (撮影：市民カメラマン・松崎 満)

目指せ 低炭素化! 温暖化をとめよう

エコな移動にチャレンジ!

通勤、通学、買い物など私たちは毎日どこかに出かけています。出かけるときは、地球温暖化の主な原因となっている二酸化炭素を全く出さない究極のエコな移動、つまり徒歩や自転車での移動や、賢い車の利用を心がけましょう! 所沢市では、こうしたエコ・モビリティ(エコな移動)を推進しています。

◆自転車や徒歩を見直そう!

自転車や徒歩は、CO₂をまったく出さない究極の環境にやさしい移動方法です。一人が1km移動するときに、マイカーでは約191.3gのCO₂を排出しますが、自転車や徒歩はもちろん0gです。渋滞の起こりやすい時間帯や場所では、目的地に早く着くことができ、健康面でもプラスになります。

◆公共交通機関を利用しよう!

一人が1km移動するときの公共交通機関によるCO₂排出量は、バスは約45.4g、鉄道は約17.3gで、マイカーに比べ少なくて済みます。また、最近ではハイブリッドバスなどのエコカーも走っています。通勤や通学、旅行のときなど、公共交通機関は、正確な時間に目的地に到着できる大変便利な乗り物です。また、最寄り駅までや乗換時の徒歩移動は、健康面でも効果的です。40歳代の男性が10kmの道のりを、車通勤した場合(25分程度)と、徒歩10分、鉄道15分、徒歩10分で通勤した場合を比較すると、徒歩と公共交通機関で通勤した場合は消費カロリーが約2倍となります。

◆自動車の利用を工夫しよう!

マイカーを運転するときは、ふんわりアクセルやアイドリングストップなどエコドライブに心がけましょう。燃費が向上して、排出されるCO₂も削減できます。また、マイカーを買い換えるときは、ハイブリッド車や電気自動車などのエコカーを考えてみましょう。ランニングコストも節約でき経済的です。

所沢市はチャレンジ25キャンペーンに参加しています
問い合わせ 環境総務課 ☎2998-9133 ☎2998-9394



はっらっ 野老っ子



100年前、当時の所沢飛行場から初めて大空に飛び立った飛行機、アンリ・ファルマン機。その2分の1復元模型が、現在市役所1階市民ホールに展示されていることを、皆さんご存知ですか(本号表紙参照)。今回は、この復元模型を製作した彫刻家の柳澤飛鳥さんをご紹介します。

高校生のころ、大西洋無着陸単独横断初飛行に初めて成功したチャールズ・リンドバーグに感銘を受け、飛行機に興味を持った柳澤さん。「この偉業に挑戦した人は他にもいましたが、飛行機の製作と操縦の両方に携わった人は彼が初めてです。彼の飛行機への深い愛着が、強運をもたらしたのだと思います」とリンドバーグに飛行機乗りの真髄を感じ、「自分で作った飛行機で空を飛びたい!」という思いを強くしました。「飛行機を作るための技術を習得するにはどうしたらよいか考えたとき、思い浮かんだのが木工・金属・布などあらゆる技術を学べる彫刻家という職業でした」。彫刻家の道を選んだのも、飛行機が原点だったのです。

所沢に移り住んだのが、約28年前。その後、飛行機を愛する地元仲間と、人力飛行機の製作や鳥人間コンテストへの出場を経験します。飛行機がつないだ人との出会いから「所沢が航空発祥の地」であるこ

大好きな空
元町 清水一希
空について僕が思うこと。僕の気持ちはずっと空の顔で決まっていた。空の顔がくもっている、僕の気持ちもいまいちょうが咲かない。雨のときは、僕の気持ちも暗く沈む。ジメとした冷たい空気が、僕の気持ちをさらに暗くする。いやなことがある日はなおさらだ。空のきげんがどうでもよく、僕が僕でいることに満足している。空は人の心を左右する力がある。だから僕は空が好きだ。

夢を乗せて大空へ飛び立て

彫刻家 柳澤 飛鳥さん(松郷在住)

とを知った柳澤さんは、この地から空へ飛んだ輸入飛行機4機と準国産民間飛行機1機の合計5機の復元模型を作ることを心に決めました。熱い気持ちを共有する企業の協力もあり、すでに2機を完成させることができている。そして、記念すべき航空発祥100周年の今年、そのうちの1機、アンリ・ファルマン機の復元模型が1月から6月末までの半年間、市役所で展示されることになったのです。「飛行機の角度やつり下げ方など細かいところまでこだわりました。天井からつるされた自分の作品を見たときは胸が熱くなりました」と万感の表情を浮かべて、その喜びを語ってくれました。

「所沢にゆかりのある飛行機5機すべての復元模型を完成させ、多くの方に見ていただくのが私の夢」。そう語る柳澤さんは、まさにアンリ・ファルマン機に初飛行の夢を乗せた先人と同じパイオニア精神の持ち主。これからも飛行機に夢を乗せて、ますます活躍されることでしょう。



▲アンリ・ファルマン機復元模型の組立作業をする柳澤さん

ところざわ 歴史まめ知識

所沢市域にかかわる歴史的事項を50音順に紹介しています。今号は「こ」です。



航空記念公園 基地返還後の跡地に計画され、昭和53年(1978)に開設された県営公園。総面積50万平方メートルの広さで、公園内には数多くの花が植えられ、春になると約200本といわれる桜が咲き、大勢の花見客でにぎわいます。また、所沢航空発祥記念館のほか、C-46型輸送機「天馬」、航空発祥の地記念碑、木村・徳田両中尉記念塔、フール大佐像、少年航空兵像など、所沢飛行場の歴史や航空にかかわる記念碑やモニュメントが点在しています。

穀倉 江戸時代、主に非常用に使用された穀物貯蔵庫。村内の経営規模の大きな農家に建てられ、「コクバコ」「ハエゴク」とも呼ばれました。市内では、中富地区に1棟だけ残され、現在は中富小学校の敷地の一角に移設して公開しています。内部は3層に仕切り板、異なる種類の作物を同時に収納できるようにになっており、仕切り板を外せば納屋としても使えました。これとは別に、当時の村には年貢米の保管と凶作に備えて集落共有の郷蔵もありました。



▲旧中家穀倉(中富小学校内)

小手指ヶ原古戦場 元弘3年(1333)5月、鎌倉幕府を倒すため上野国(群馬県)新田庄で挙兵した新田義貞は、鎌倉街道を南下し、小手指ヶ原で幕府軍と対戦しました。埋蔵文化財調査センターの南側には、小手指ヶ原古戦場碑が立ち、近くには新田方を象徴する源氏の白旗を掲げたといわれる白旗塚や、誓いを立てたことに由来する誓詞橋などがあります。なお、小手指ヶ原はその後、建武2年(1335)と正平7年(1352)にも合戦があり、それらの合戦場としても知られています。

問い合わせ 生涯学習推進センターふるさと研究 ☎2991-0308 ☎2991-0309

誰でも エッセイ
テーマ空
夕焼け空
6階の我が家からは、富士山、秩父の山ながみ見える。その上に広がる季節ごとの空を見るのが好きである。特に夕焼けの美しさは格別で、亡き夫と二人夕焼け鑑賞会と称しよく眺めた。会長は、もちろん夫である。

